

意見書

令和元年 12 月 10 日

小矢部市外部評価委員会

令和元年 12 月 10 日

小矢部市長 桜 井 森 夫 様

小矢部市外部評価委員会

委員長 石 崎 誠



令和元年度小矢部市外部評価委員会意見書の提出について

小矢部市外部評価委員会（以下「委員会」といいます。）は、小矢部市の行政執行に関し、市民等による行政外部の視点を確保し、評価の客観性・信頼性を高めることを目的として設置されているものです。

本年度は、小矢部市が平成 30 年度に執行した事業の中から 6 事業を選択し、2 回にわたって評価を行いました。

各事業の評価結果は別添のとおりですが、今後、市当局におかれましては、新年度の予算編成等に当たっては評価結果を参考の上、市民の理解を得て適切な行政執行に当たられるようお願いいたします。

なお、個別事業評価とは別に、今回の委員会で特に重点的に議論となった点については下記のとおりですので、併せて付記いたします。

記

市営バス運行事業

本事業は、生活を支える身近な交通網の整備充実と、年齢や障害にかかわらず誰もが安全で快適に移動できるよう、人に優しい公共交通サービスを提供することを目的として実施されている。

平成 30 年度の利用実績については、メルバス（5 路線）が 52,373 人、乗合タクシー（5 路線）が 3,156 人と、年々増加傾向で推移しているが、PR 不足のためか乗合タクシーの利用者が比較的少ない。利用者の意見を聞いて、より簡単な利用方法にする等の改善を行うこと。

高齢者等のバス停利用に際しては、バス停から医療機関までの距離が長いことや、行き先の表示が分かりにくいといった声がある。バスの台数が限られている中で、運行方法を工夫し、行き先の表示を地名と併せて施設名にする等の検討が必要である。

市民の足を支える大切な事業であることから、新しい取組としてのデマンドバス等の研究を行う等、今後も継続に向けて努力してほしい。

クロスランドおやべ管理運営費

クロスランドおやべを通して、文化、芸術、経済等の様々な分野の交流を推進し、広域的な地域間交流の拠点の形成と市民の社会生活の向上及び地域の活性化に取り組むことを目的として、補助金や委託料を支出する事業である。

一般財源からの支出が多いため、補助金の減額に向けて、令和元年度から「おやべイルミ」を自主事業化する等の対策はなされているが、さらに、民間への一部賃貸、既存テナントの賃貸料値上げ、駐車場有料化等の検討が必要である。

具体例として、ダ・ビンチテクノミュージアムの入場者数が少ないため、これを増加させる方策が必要で、場合によっては民間への賃貸が考えられる。

本事業は、小矢部市のシンボルであるクロスランドタワーを始めとした施設管理や市民に親しまれるイベント等を行っており、今後も継続すべきである。

1 小矢部市外部評価委員会の構成

職名	氏名
委員長	石 崎 誠 也
委員	川 原 久 俊
委員	河 合 千 枝 子
委員	柴 田 昭 浩
委員	酒 井 安 子
委員	加 藤 里 美

2 小矢部市外部評価委員会の開催実績

回	期日	評価対象事業
第1回	令和元年11月13日(水)	<ul style="list-style-type: none">・ 誕生お祝い事業・ 市営バス運行事業・ 防災備蓄品整備事業
第2回	令和元年11月20日(水)	<ul style="list-style-type: none">・ 放課後児童健全育成事業の拡充・ クロスランドおやべ管理運営費・ 義仲・巴広域連携推進事業

3 評価結果

事務事業名 担当課名	評価番号	今後の方向性・コメントなど
誕生祝い事業 企画政策課	21 現行どおり進めることが望ましい	子供の誕生により、郷土への愛着と市内特産品の活性化を図る点において、市民から理解を得ている良い事業である。記念品については、市指定の花木である紅梅の苗を選択肢に取り入れる等、改善の余地がある。 財源が宝くじ収益金ということではあるが、限られた経費で最大の効果が上がることに期待する。
市営バス運行事業 生活環境課	32 事業効率化などの事業内容の改善を図る必要がある	市民の足を支える大切な事業であり、今後も継続すべきである。 メルバスの利用は多いが、乗合タクシーはPR不足のためか利用が少ない。乗合タクシーの利用者が増えることによって収支が改善される可能性があるため、利用者の意見を聞きながら、より簡単な利用方法に改善する必要がある。 また、市民の高齢化を踏まえ、行き先の具体的な施設名への変更、地域の要望に合わせた停留所の移設やデマンドバスに係る事例研究等、弾力的な運営に努めてほしい。
防災備蓄品整備事業 総務課	21 現行どおり進めることが望ましい	自然災害等が多発する中、必要な事業であり、交付税措置を見込めることから、最新情報等を収集しつつ、継続して必要な備蓄食料や資機材等を整備すべき。ただし、市に全面的に頼らないで、各家庭で備蓄を行っておくことの周知も必要である。 ハザードマップについては、配布だけでなく、一人一人が確認することや、公民館活動等において地域で話し合うこと等の啓発が必要。
放課後児童健全育成事業の拡充 こども課	21 現行どおり進めることが望ましい	昔と違って三世同居が減っており、夫婦共働きの家庭にとって学童保育は欠かせない。定住促進を促進する上でも必要な事業であり、公民館の放課後事業との重複を考慮しながら推進すべきである。 定員予測については、今後、子供の減少が予想される中、預けるかどうかは親次第であり、困難なことは理解できる。ただし、委員会の中でも質問があったとおり、児童1人当たりの費用データを算出しておく必要がある。 指導員の一部について民間委託を始められたようだが、教室のオープンスペース化の検討等も含め、引き続き人材確保に努めてほしい。
クロスランドおやべ管理運営費 生涯学習文化課	32 事業効率化などの事業内容の改善を図る必要がある	一般財源からの支出が多いが、小矢部市のシンボルであるクロスランドタワーの管理や市民に親しまれる事業を行っており、今後も継続すべきである。 ただし、自主事業の企画内容については、新しい視点で取り組むことが必要。ホール等の貸館収入を増加させるほか、一部を民間賃貸、テナント料値上げ、駐車場有料化等、市補助金を減額させるような事業実施に努めてほしい。 また、市民の中に「近々、クロスランドタワーに登れなくなる」という誤解が広まっているため、当分の間は問題ないというPRが必要。
義仲・巴広域連携推進事業 商工観光課	21 現行どおり進めることが望ましい	「NHK大河ドラマ」誘致実現に向け、市がしっかりとアピールしていることは理解している。しかし、広域連携については周知されていないように感じるため、関係自治体との連携を一層強化すべきである。 また、石動駅前観光案内所の管理運営に当たっては、広域的な人の流れを把握するためにも、訪問者数をできる限り市内・市外に分けて計数することが望ましい。 大河ドラマの視聴率低下で先行きに一部不安はあるが、ラジオドラマ等、新しい取組も継続し、市民が義仲ゆかりの地として意識を再び高められるようにしてほしい。

《評価番号の凡例》

1 廃止すべき	11	事業を廃止すべきである
	12	事業を終了すべきである
	13	事業の役割が終了している
2 現行どおり実施	21	現行どおり進めることが望ましい
3 現行で実施することが 適当であるが、事業 内容や規模の見直し が必要なもの	31	事業内容の抜本的な見直しが必要である
	32	事業効率化などの事業内容の改善を図る必要がある
	33	事業統合、あるいは段階的廃止が必要である
	34	事業規模の縮小が必要である
	35	事業規模の拡大が必要である
	36	他の機関（国・県）へ事業を移管する必要がある
4 民間活力の活用方法 の見直しが必要なもの	41	民間委託を検討すべきである
	42	民間委託を実施すべきである
	43	民間委託の対象を拡大すべきである
5 民間が実施すべきもの	51	民間が実施するほうが効果的・効率的である